

行政管理から都市経営へ

財政健全化 推進プランの策定

「今、課題を明らかにし、抜本的な改革を行わなければ、釧路市の未来はない」

平成22年8月、私は連日開催した住民説明会の席で、「釧路市土地開発公社」および「株式会社釧路振興公社」が抱える巨額の負債について詳細に説明し、未曾有の財政危機を克服する強い決意を示しながら、



北海道を代表する観光地、阿寒国立公園「阿寒湖」

財政健全化推進の取り組みに対する理解を求めていました。
「第三セクター等改革推進債」の活用によりこの2つの公社を解散・清算するとともに、恒常的な財政収支不足を解消するため、釧路市は「財政健全化推進プラン」を策定しました。

このプランは、平成22年度および平成23年度に発行する第三セクター等改革推進債の償還が終了する平成38年度までの累積収支不足見込み額約265億円の解消を目指すものであり、市民や市職員の痛みを伴う厳しい内容となっています。しかし、このプランの策定によって、釧路市財政にとって長年の懸案であった両公社の「土地問題」の抜本的解決への道筋を付けることができたといえます。

釧路市土地開発公社は平成23年

3月に、釧路振興公社は11月に清算終了することができました。今後は、「財政健全化推進プラン」の確実な実行を図りながら、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきたいと考えています。

都市経営戦略プランの策定

少子高齢化社会の著しい進展や厳しい経済環境などを背景とする危機的な財政状況を克服するためには、ともすれば前例踏襲型になりがちな市政運営に都市経営の視点を取り入れることが重要です。このため、本市では釧路公立大学地域経済研究センターとの共同研究として「釧路市都市経営戦略会議」を設置しました。戦略会議には私自身が議長として参加し、座長役は地域経済研究センター長でもある小磯修二学長に務めていただきました

3月に、釧路振興公社は11月に清算終了することができました。今後は、「財政健全化推進プラン」の確実な実行を図りながら、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきたいと考えています。

た。会議メンバーには地方行政を専門とする有識者5名にご参加いただき、約8カ月にわたる集中的な議論を経て、「釧路市の都市経営のあり方に関する提言書」を取りまとめいただきました。本市ではこの提言を受けて都市経営戦略プランの策定に取り組んでいます。

先行取り組みとして、市民と協働して行う分かりやすい財政情報 の検証や行政評価の決算・予算への連携など7つの施策に取り組み始めています。特に人口が減少し、未利用や低稼働となる公共施設の多くが老朽化し、今後、大規模修繕

など多額の維持更新費用が必要となることから、施設所管ごとの管理から施設機能に応じた分野で一元管理を行う公有資産マネジメント手法によるデータベースの構築と、公共施設の保有最適化には全庁的な体制で取り組むこととしました。

また、市税、国保料などの未収金については収納率の向上に努めてきましたが、債権の回収手法において各課の取り扱いが一元化されていないなど、全庁的な観点での取り扱いが必要な状況となっております。このため財務、税務、法務および企画部門の連携により、市長直属のプロジェクトチームを編成し、その取り組みとしてこれまでの未収金対策を公平・公正の観点から、公債権はもとより私債権まで拡大することとしました。

これら都市経営の取り組みの背景には、地域や行政が人口減少に向き合わなければならない課題があり、これまでの社会システムが量的な成長拡大をベースにしてきた発想からの転換が必要となっています。

地域の資源を生かす まちづくり

釧路港は平成23年5月「国際バル

ク戦略港湾」として穀物を担う全国5港の一つに選定されました。これは釧路港が世界に連なる太平洋に面し、輸入先である北米に航路が至近であり、さらに国内の食料供給機能を担う十勝、オホーツク、釧路・根室圏域の東北海道を後背地に持つ地理的特性から、戦略的な役割を担い国際競争に対応するものであります。

また、多国間の環境条約で先駆的な役割を担うラムサール条約の国内登録湿地第1号である釧路湿原国立公園は、同条約第5回締約国会議のフィールドとして「賢明な利用(ワイズユース)」を世界に発信し、湿地の持つ資源の継続的な利用を広めました。「タンチョウ」「マリモ」の天然記念物が生息し、生物の多様性に優れた阿寒国立公園をはじめ本市では山岳、森林、湖沼、河川、海浜など多彩な自然と、地域の資源を生かす水産業、酪農業、林業、石炭鉱業、製紙産業など厚みのある産業が地域経済を牽引しています。

加えて「涼しくしろで避暑生活」と銘打った平成23年夏の二地域居住には、8月の平均最高気温21.7℃の釧路の涼しさが首都圏の人気を呼び、問い合わせが殺到。受

け入れ滞在日数は例年の3倍を越す延べ4500日を記録し、全道ナンバー1となりました。

豊かな自然、優れた人材、長年の取り組みを通じて地域に蓄積された技術とノウハウ、これら地域の資源を最大限に活用するまちづくりを推進することで、本市の明るい未来は必ずや開けるものと確信しています。

プロフィール

- ◆ 面積 1362.75km²
- ◆ 人口 18万3633人
- ◆ 世帯数 9万3908世帯

〔将来都市像〕環境・交流都市「釧路」
 〔まちの特徴〕2つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれ、東北海道の拠点都市として社会、経済、文化の中心的な機能を担うまち

〔市町村合併〕平成17年10月11日 釧路市、阿寒町、音別町による新設合併
 〔特産品〕炉端焼き、蕎麦、釧路ラーメン、釧路ししゃも、釧路定置トキシラスズサ



釧路市長 蝦名大也



ラムサール条約の国内登録湿地第1号「釧路湿原国立公園」



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人・自然・文化の「共生」と「共創」を目指して

はじめに

このたびの「東日本大震災」により被災された皆さま方に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、尊いお命を亡くされた方々に対し、謹んでお悔やみ申し上げます。

茂原市の沿革と特色

茂原市では、土木工事が行われたときなど、鯨の化石や貝殻が発掘されることがあります。これは



豊富な地下資源「天然ガス」

「茂原貝塚」と呼ばれ、数万年前までは海中にあったことを教えてくれます。平安時代には、茂原の地は「藤原黒麻呂」によって開拓され、藤原氏の荘園となった「藻原荘」は寛平2年(西暦890年)に奈良の興福寺に寄進されたという記録があります。鎌倉時代には、藻原寺が建立されるなど、文献などから鎌倉や京都と交流があったことも見受けられます。特に大きな戦乱に巻き込まれることもなく、安定した発展を続け、江戸時代には本納地区で「1」と「6」の日に開催する市と、茂原地区で「4」と「9」の日に開催される市の六斎市が開かれ、山間部と海岸地帯の接点に当たる茂原・本納は市場的要素が加味されて、物資集散が多くなり、交通の中心地となっていました。

煙のない工業都市茂原

明治時代に入ると、地下資源として天然ガスが豊富に埋蔵されていることが発見されました。明治初期には家庭用の灯火として使われ始め、次第に燃料、動力、さらには工業用原料にも活用され、昭和に入ると大工場の進出を見るに至りました。

この天然ガスは、電子管工場、化学工場の誘致の源となり、茂原は「煙のない工業都市」と呼ばれるようになりました。

昭和27年に市制を施行し、昭和47年には隣接の本納町と合併、今では人口9万2000人余の九十九里地域最大の都市となり、政治、経済、文化の中心地として発展を続け、今日に至っています。

最大のイベント 茂原七夕まつり

今では本市の夏の風物詩として定着した「茂原七夕まつり」は、多くの観光客が来訪する茂原最大のイベントです。平成23年は「とどげ元気・とどげ願い」をメインテーマに掲げ、被災地復興を願ったものとなりました。電力供給や安全対策に配慮し、時間を短縮しての開催となりましたが、県内外から68万人余の観光客が訪れ、盛会のうち無事終了することができました。

今回の新たな取り組みとして、茂原七夕まつりのマスコットキャラクター「モバリん」のお披露目式を実施したほか、茂原市役所脇を流れる「豊田川」の一部を愛称「天の川」と命名し、川の両端に竹飾りを施しました。また、川の周辺の壁に、七夕にちなんだ壁画を市内高校生に制作していただき、お祭りに彩りを添えました。夕方には、竹を短く切ったものを大量に川辺

に並べ、その中にキャンドルを灯し、とても幻想的な雰囲気醸し出され、訪れた観光客の目を楽しませていました。

また、これまで本市にとって地域をPRする名産品が乏しかったことから「七夕の郷・茂原」の新名物として「七夕まつり最中」「五色のロールケーキ」「天の川ロール」「七夕星せんべい」など七夕にちなんだ4つの「茂原謹製銘菓」を決定しました。いずれも市内の老舗や新進気鋭のスイーツ店から応募があったもので、イベント中に大試食会を行ったところ、大変好評であり、本市を訪れる方々にお勧めしたい一品です。

イベントの佳境は「もばら阿波おどりと」と「ちばYOSAKOI・夏の陣」です。「もばら阿波おどり」は市内企業・団体などの10連が駅周辺を練り歩き、観客と踊り手が一体感に包まれる「七夕まつり」には欠かせないものの一つとなっており



夏の風物詩「茂原七夕まつり」

ます。「ちばYOSAKOI」

これからの茂原

I・夏の陣」は、イベント最終日に行われ、12チーム約500人もの方々がとてもダイナミックな踊りを披露してくれました。

平成32年度を目標年次とする「後期基本計画」が平成23年度よりスタートし「すべての市民が住んで良かったと思えるまち茂原」の実現のため、教育文化・健康福祉・生活環境・都市基盤・産業振興・市民自治の6本の柱に沿って総合的に施策を展開することにより、市民とともにつくり上げる「市民参加のまちづくり」を推進しています。

平成25年3月には、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の開通が見込まれています。2つの国際空港(成田空港・羽田空港)に、それぞれ約1時間で到達できることから、産業・経済・流通・医療をはじめ、さまざまな分野において地域発展の原動力となるものであり、併せて、大規模災害時には緊急避難や物資輸送などでも、大きな役割を果たすことから、その完成に大きな期待を寄せています。

また、天然ガスを採取するとき

プロフィール

- ◆ 面積 100.01km²
- ◆ 人口 9万2790人
- ◆ 世帯数 3万8297世帯

〔将来都市像〕ゆたかなくらしをはぐくむ「自立拠点都市」もばら
〔まちの特徴〕千葉県のほぼ中央に位置し、温暖な気候で、豊富な天然ガスが産出され、首都圏の1時間弱交通圏域内という立地条件を生かし、農業・商業・工業のバランスの取れた都市



茂原市長 田中豊彦



〔特産品〕ネギ・イチゴ・米・茂原謹製銘菓
〔観光〕茂原公園(日本さくら名所100選)、藻原寺、レイクウツズガーデン「ひめはるの里」、茂原牡丹園、服部農園あじさい屋敷、掩体壕、旬の里ねぎぼうず、六斎市
〔イベント〕茂原七夕まつり(関東3大七夕まつり)、茂原桜まつり、茂原秋まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民とともにつくる「日本一安心で安全のまち・まつばら」を目指して

南大阪の玄関口

松原市は、大阪府のほぼ中央に位置し、北は大阪市、西は堺市に隣接しています。大阪都心部からは10km、20km圏内にあり、鉄道では近鉄南大阪線により阿部野橋駅から河内松原駅まで約10分で



交通の結節点「松原ジャンクション」

結ばれています。また、阪神高速道路、西名阪自動車道、阪和自動車道、近畿自動車道、国道309号、大阪中央環状線などの主要道路が市内を貫通し、南大阪における交通の要衝地であるという立地から南大阪の玄関口となっています。

歴史的に見ると、その昔、温かな気候に恵まれた本市域は、1万年前の旧石器時代から人々が住み着き、大阪湾と大和地方を結ぶ交通の要衝として栄えました。特に古墳時代には、大和王権の大王の宮が置かれたり、巨大な前方後円墳が築かれたり、わが国最古の官道が通るなど、本市は豊かな歴史遺産を持つまちでもありません。

今、本市は、先人たちが残した歴史遺産を受け継ぎながら、利便性・快適性の高い生活文化都市に

向け、着実に歩み続けています。

セーフコミュニティの認証取得へ

全国各地でさまざまな事故や事件、災害が頻発している中、本市では、誰もが健康で安心して安全に暮らせるまちづくりを最重点施策として取り組みを進めてきました。地域の災害避難場所として、すべての小・中学校施設の耐震化を府内でも先駆けて完了させるとともに、市民の健康を守るため、地域医療体制の充実を図り、任意の予防接種である高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用の半額助成事業などを実施してきました。

しかし、行政が主導するだけでは限界があります。関係機関や住民の皆さんとの協働で取り組みを進めてこそ、真の安心・安全が実



松原市マスコットキャラクター「マッキー」

現できると考えています。

そこで、本市は、「日本一安心・安全のまち」を目指し、大阪府内で初めての取り組みとなる世界保健機関(WHO)が推奨するセーフコミュニティ認証取得に向けた活動を進めています。この取り組みは、事故やけがなどは「予防できる」という理念の下、事故や犯罪などのデータを科学的に検証することで地域に潜む危険性を明らかにし、市民の皆さんと連携して対策を講じ、人と人の絆を大切にしましたまちづくりを進めるものです。

この取り組みを進めるために

は、何と言っても市民の皆さんやあらゆる関係機関とのより一層の「協働」が欠かせません。最も地域の実状を把握している地域住民の皆さんが地域の課題を解決し、その行き届かない部分を行政が補完していくというこれまでの協働をさらに進化させた「新たな協働」で、「日本一安心で安全のまち」を目指しています。

食をテーマにした「まつばらマルシェ」

市内企業や農業者に本市の食品や農畜産物を紹介してもらい、本市の素晴らしさを市内外に広く発信するため、「食」をテーマにした地産地消フェア「まつばらマルシェ」を毎年11月に開催しています。農商工の連携に加え、産学官が一つになって開催するこのフェアは、南大阪最大級の規模を誇り、地産地消を身近に感じ取ってもらう場として、市内外から多くの人が訪れます。地元で生産された安心・安全な食材を広く市内外に発信し、本市のブランド力を高めるとともに、食を通じて市民一丸となって取り組むことで、市民協働の気運も高まり、地

域の活性化につながると期待しています。

挑戦し続ける元気あふれるまち

本市は、平成23年3月に今後の8年間を見据えた松原市第4次総合計画を策定しました。本市では、この8年間を将来の松原を切り開く絶好の機会ととらえ、本市が持つ自然や社会基盤などの地域資源を最大限に活用しながら、将来都市像「挑戦し続ける 元気あふれるまち まつばら」の実現に向け、まちに対する誇りと愛着を持って、常に挑戦する心意気で、魅力あふれる個性豊かなまちとして成長させていきたいと考えています。

人は価値ある財産「人財」

まちづくりを進める上での基本は、何と言っても「人」です。私には、「人」を「人材」ではなく、人は価値ある財産であるという意味から「人財」としてとらえています。

市民も議会も行政も皆がそれぞれの責任と役割を果たしながら、積極的に協働してまちづくりに取

り組むことが未来の新しい松原市をつくることにつながると考えています。

今後とも、本市の誇る「人財の力」を結集し、その力をもって「地域力」を高め、「日本一安心・安全のまち まつばら」を実現させていきたいと考えています。そして、本市に「住み続けたい」「住んでみたい」と感じることのできる市民満足度の高い松原を目指し、スピード感を持って前進してまいります。



多くの人でにぎわう「まつばらマルシェ」

プロフィール

- ◆ 面積 16・66km²
- ◆ 人口 12万5327人
- ◆ 世帯数 5万4543世帯

〔将来都市像〕挑戦し続ける 元気あふれるまち まつばら

〔まちの特徴〕近畿各地への高速道路が広がる南大阪の玄関口として発展を続けている住宅都市

〔特産品〕金網、印材、真珠核、コマツ



松原市長 澤井宏文



大、ネギ、枝豆

〔観光〕柴籬神社、屯倉神社、布忍神社、松原市民ふるさとびあプラザ

〔イベント〕まつばらマルシェ、バラフェスティバル、まつばら市民まつり、松原市民大運動会、松原市民マラソン、布忍神社万灯ろう、歯神社祭典、開運松原六社参り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域の特性や個性を生かしたまちづくり

香南市について

香南市は、高知県の中東部に位置し、南は太平洋に面した海岸線が約10kmあり、その一部は県指定の自然公園になっています。一方、北は四国山地の一部で、山々の豊かな自然とその山を源流とする河川が下流域に広がっています。まちの中央部には、農地と住宅地、大型店やショッピングセンターが並ぶ商業地域があり、東部の山添いには工業用地が広がっています。また、高知龍馬空港にも近く、高知市内への通勤・通学にも適したベッドタウンとしての利便性と平成21年の陸上自衛隊の移駐もあり、平成22年の国勢調査では、人口が増加した県内で唯一のまちです。

緑豊かな山々に囲まれ、肥よく

な香長平野が広がる本市は、野菜の促成栽培とハウス栽培が盛んで、みかんとニラは県下でも有数の生産量を誇っています。海では1年を通してイワシやアジ、サバが捕れ、観光地引き網体験も行っています。

歴史が息づく伝統と祭り

国内のみならず、海外でも評価の高い絵師・金蔵(通称「絵金」)の土佐芝居絵屏風が本市赤岡町に23点残されています。屏風絵は、芝居の異なる場面を一枚の絵の中に描き込むという独自の手法で表現されており、その独特の色彩は、絵金自らが開発した泥絵の具による極彩色、中でも血しぶきに代表される赤色の鮮烈さは群を抜いています。これらの屏風絵は、毎年7月に開催する「須留田八幡宮の

宵宮」と「絵金祭り」のときにだけ商店街の軒先に並べられます。ロウソクの灯に照らされ、あやしげに浮かび上がる人物は、おどろおどろしさを増します。

そして、この屏風絵を地元の有志が土佐絵歌舞伎で再現し、毎年、絵金祭りに合わせて上演し、祭りを盛り上げています。また、本年、絵金が生誕200年を迎えます。今でも奔放な筆致と原色をばらまいたような鮮烈な彩色、激情を表出した絵金の絵は、赤岡の町で開花したと言っても過言ではありません。

そんな絵金の魅力と屏風絵を守り続けているまちの文化をより多くの人に体感してもらえ



ろうそくの明かりに浮かび上がる絵金の芝居絵屏風(絵金祭り)

るよう、ただ今、記念行事を計画中です。

絵金以外にも、本市には県指定の無形民俗文化財が多数あります。その中でも、香我美町山北地区に伝わる「山北棒踊り」は、秋の神祭に奉納される伝統行事で、親から子へ、子から孫へ受け継がれて300年になります。棒踊りは、いろいろな演目で構成されており、白装束姿の20人が掛け声とともに、力強く棒を打ち合う姿は特に迫力があります。

先人たちが培ってきた歴史と文化が大人から子どもへ、先輩から後輩へと受け継がれていくことで、郷土愛が生まれています。

全国に誇れる果物たち

「山北ハウスみかん」の名称で広く知られる温室みかんは、4月上旬から10月上旬に収穫し、その程よい甘さと酸味のバランスは絶妙で、ジューシーな果肉はコクがあり、果皮は薄くて柔らかいです。露地栽培のみかんも有名で「温州みかん」といえば山北」といわれています。さらなるみかんの消費拡大を目的に、平成6年から毎年11月に開催しているのが「山北みかん健康マラソン大会」です。みかんがたわわに実った畑を横目に気持ちよく走ることができ、子どもか



みかんが実る山道を走る参加者たち(山北みかん健康マラソン大会)

の多様化に加え、少子高齢化、地方分権などといった社会情勢も大きく変化してきています。行政運営に必要な財源も今後ますます厳しい状況になることが考えられます。将来を

らお年寄りまで県内外から約850人もの人々が集まります。そして、イタリア語で「3つの果実」を意味する「トレ・フルツァ」の名で全国に出荷している果実が、エメラルドメロンとルナ・ピエナ(スイカ)、フルーソットマトです。どの果実も太陽の光が果実全体に行き渡るよう工夫を凝らした特別な方法で栽培しているため、味のムラが少なく、糖度も高い上に深い味わいを持った果物です。安心・安全は言うまでもなく、いつもおいしい果物がお届けできるよう、栽培技術の向上と品質管理に力を入れています。

まちの未来を市民とともに描く

近年、人々の価値観や生活様式

見据えた財政の健全化や社会環境の変化とニーズに合わせた事務事業の見直し、住民参加による地域協働のまちづくりが重要な課題となっています。

ていくことができる住民自治の組織づくりにも取り組んでいます。人間関係が希薄になりつつある現在において、住民、地域、行政などがお互いの絆を強めて行くことは大切です。地域の特性や個性を生かした「住んで良かったと思える香南市」を目指し、協働によるまちづくりに一層取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆面積 126・51km²
- ◆人口 3万4541人
- ◆世帯数 1万4404世帯

〔将来都市像〕美しい水と緑と風に包まれ、元気で豊かに光るまち

〔まちの特徴〕南には太平洋が広がり、物部川・香宗川・夜須川など豊かな水と緑に恵まれた、歴史と伝統が息づくまち

〔市町村合併〕平成18年3月1日、赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村による新設合併



香南市長 仙頭義寛



〔特産品〕みかん、メロン、スイカ、フルーソットマト、ニラ、サツマイモ、シヨウガ、らっきょう、ちりめんじゃこ

〔観光〕ヤ・シイパーク、絵金蔵、県立のいち動物公園、龍馬歴史館、世界クラシックカー博物館

〔イベント〕絵金祭り、土佐絵歌舞伎、赤岡冬の夏祭り、どろめ祭り、みなこい港まつり、手結盆踊り、旧正月凧揚げ大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。